

クラウド・インフラストラクチャーの選択

サービス・プロバイダーの何を考慮して選択すべきか？

エグゼクティブ・サマリー

企業は今日、多様な、また相反する問題に直面しています。設備投資を増加させることなく、IT の複雑さに対処する必要があることや、数少ない熟練された人材で、IT インフラストラクチャーを安定維持しなければならないこと、また、コストを抑えながら、高い俊敏性を実現することといったような問題です。

クラウド・ベースのアプリケーション・ホスティングとアプリケーション管理を利用することにより、企業が直面する重大な課題のいくつかを軽減できるということを多くの企業が認識しつつあります。重大な課題とは、IT の増強およびアップグレード、スキル保有者の配置と教育、戦略的ビジネス・プロジェクトへの大規模な投資計画などです。だからこそ、クラウド・コンピューティングが今、CIO の最優先課題となっているのです。

しかしながら、信頼できるクラウド・サービス・プロバイダーを選択するには、いくつかの主要な要素について注意深く考慮しなければなりません。このホワイト・ペーパーでは、お客様がクラウド・インフラストラクチャー・サービス・パートナーを検討する際に確認すべき特性について紹介します。

クラウドに立ちほだかる障害

クラウド製品およびサービスがもたらすユビキタスな特性にもかかわらず、いくつかの企業は、依然としてそれを完全に取り入れることをためらっています。そこにはクラウド上でホスティングされているデータは、データ・セキュリティのリスクが増大するのではないかと、データの最終的な保存場所が不明確になるのではないかと、さらに、規制が厳しい業界の企業は、監査要件を順守できるか、データへの適切なアクセスを維持できるかといった懸念があるようです。

Web 上で稼動していないアプリケーションに関して、従来の IT インフラストラクチャー上で稼動しているアプリケーションをクラウドへ移行することは、複雑な作業のように思われるかもしれません。また短時間でアクセスが必要なアプリケーションに関しては、データが国際的なリンクを経由する必要がある際に、パフォーマンスが著しく悪化するのではないかとという疑問があるかもしれません。全体的なビジネス・ケースの観点からコストと規模を考慮した場合にも、多くの疑問点があることでしょう。

クラウド・インフラストラクチャーに移行する理由

これらの懸念にもかかわらず、クラウド・インフラストラクチャーの採用は着実に増加しています。それは以下のような理由によるものです。第 1 に、IT 予算に対する圧力が続く一方で、ビジネスに対する IT の技術革新は依然として必要だということ。第 2 に、小規模で俊敏な競合企業が、クラウドのス



ビード、規模、信頼性を活用して、より速いペースで成長している状況の中、どの企業も後れを取りたくないということ。第3に、ユーザーのアプリケーションに対する要求はますます高くなっており、「常に使用できる」ことが期待されていること、すなわち、ダウンタイムに対するユーザーの許容度はより低くなり、そのための重要なビジネス・アプリケーションの可用性を維持管理するには、高度な技術的専門知識が必要となっていることです。

つまり、クラウド・ベースのアプリケーション・ホスティングおよびアプリケーション管理を利用することで、重要なビジネス・アプリケーションをより費用対効果の高い方法で効率的に管理しながら、貴重なリソースをコア・コンピテンシーに重点的に再割り当てできるということを、多くの企業が認識しつつあるということです。

何を確認すべきか

クラウド・インフラストラクチャー・サービス・プロバイダーを評価する基準を決めることは難しいですが、一般的に、候補となるプロバイダーが以下のものを提供できるかを考慮すべきと考えます。

- ・ 独自の要件を満たすようにカスタマイズできる、幅広い柔軟なオプション
- ・ セキュリティーおよびコンプライアンスのための厳格な管理機能
- ・ 適切なデータの保存場所
- ・ 統合され、完全に管理されたインフラストラクチャー
- ・ 広範囲に及ぶ専門性と高度なスキルを有するスペシャリストの管理による世界規模のネットワーク

カスタマイズのための幅広いオプションと柔軟性

どの企業にも、特定の業界、規制、サービス・レベル、および導入要件から生じる、独自のビジネス・ニーズや技術的なニーズが存在します。理想的なクラウド・インフラストラクチャー・サービス・プロバイダーは、画一的な対応にとどまらず、必要な時と場所に応じてカスタマイズされたサービスを提供します。企業の個別のニーズを把握するだけでなく、それらを満たすためにいかようにも構成可能なオプションを提供できるクラウド・サービス・プロバイダーを探しましょう。プロバイダーが以下の項目を提供できるかを確認しましょう。

- ・ 自社のアプリケーションの特質や要件を満たすサービス・レベル・アグリーメント（プロバイダーは通常 99 から 100% の間の可用性を提供）
- ・ サービスをカスタマイズするための柔軟性
- ・ グローバルなりモート・サポート
- ・ 将来の地域展開も考慮に入れた、デリバリー・センターのグローバルなサービス提供範囲
- ・ 新しいソリューション導入の、オフサイト（Cloud 上）およびオンプレミス（自社運用）でのサービス提供
- ・ 自社固有または、占有のクラウド・オプション
- ・ カスタマイズされた支払いオプション
- ・ 複数のハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム、最新の標準、フォーマット、およびテクノロジーなどのサポート



クラウド・ベースのアプリケーション・ホスティング採用の推進要因

厳格なセキュリティー・プロセス

最も信頼できるクラウド・テクノロジー・パートナーは複数、及び、堅牢なセキュリティー手法、そして強固なセキュリティー・ポリシーを提供します。セキュリティーおよびコンプライアンスに関する以下の考慮事項への対応が行われているかを確認しましょう。

- ・ 以下のデータ・セキュリティー要素が、ソリューションに含まれているか。
 - ネットワーク、ストレージ、バックアップにおけるデータの分離と隔離
 - 移行時のデータ暗号化
 - データのバックアップとリカバリ
 - データの消滅
- ・ 以下のプロセスが整っているか。
 - アクセス制御
 - モニタリング・アクティビティーとログ
 - 迅速な問題対応
 - 変更と構成の制御

インフラストラクチャーのロケーション

クラウド・ベースのアプリケーション・サービスを検討している企業にとって、ホスティング・インフラストラクチャーの物理的なロケーションは、単に重要であるばかりでなく、最大の関心事でもあります。なぜならばデータは、企業が所有する最も重要な資産の1つであり、そのロケーションの不明確さは、企業にとって大きな問題となるからです。まず、候補となるクラウド・サービス・プロバイダーに対して、以下の項目を確認しましょう。

- ・ 自社のデータはどこに置かれるか。
- ・ 自社のデータおよびビジネス・アプリケーションを、国外でホスティングできるか。
- ・ 監査プロセスを従来どおりに順守できるか。
- ・ デリバリー・ポイントが国内または国外によって、クラウド・ベースのホスティング・ソリューションに必要なネットワーク帯域幅のコストに影響しないか。また、ホスティングされたアプリケーションのアクセス時間やパフォーマンスに影響はないか。

統合され、完全に管理されたインフラストラクチャー

ますます増加するアプリケーションを、それらの可視性や制御のレベルを維持しながら効果的に管理することは、難しくなっています。もしそれらのアプリケーションを複数のベンダー独自の管理コンソールや手動のアラート・プロセスで管理しようとすると、大規模な障害やコンプライアンス問題につながり得る重要なイベントを見逃す可能性があります。

統合された IT サービス・インフラストラクチャーは、品質維持、コスト抑制、リスクの効果的な管理を行うことが可能です。候補となるプロバイダーが以下の項目を提供できるかを確認しましょう。

- より優れた統括的な制御を実現する、24 時間体制の監視および管理
- 可用性の向上に役立つ、数百ものパラメーターに基づいた先進的な診断による、リアルタイムな問題分析力
- 統合された、エグゼクティブ/テクニカル・レポートの作成
- 統合された、あるいは簡単に組み込み可能な、データ・バックアップと災害復旧ソリューションのオプション

広範囲に及ぶ専門性と高度なスキルを有するスペシャリストの管理による世界規模のネットワーク

適切なパートナーは、評価、計画、移行、運用の、ベスト・プラクティスに基づくアプローチ、方法論、そしてプロセスを提供することで、より短期間に成果を出し、障害のリスクを低減するよう支援します。以下の質問に適切に回答できるクラウド・サービス・プロバイダーを探しましょう。

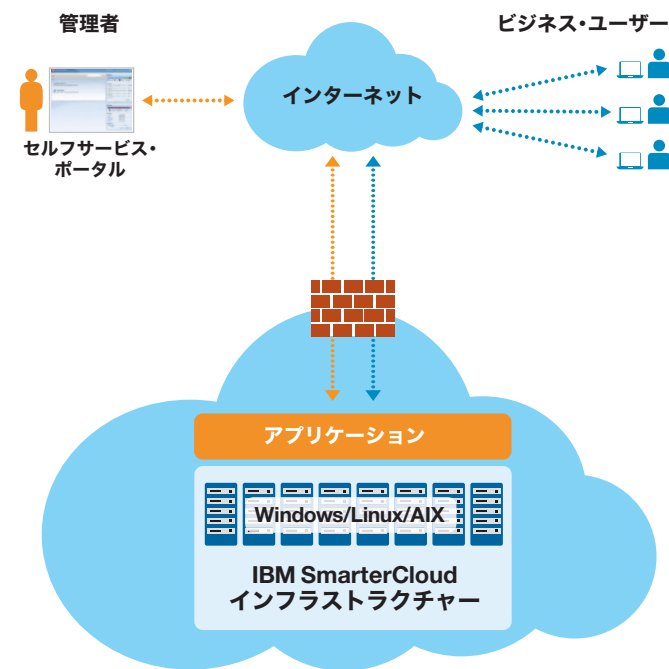
- 一般的な ERP および CRM プラットフォームのためのクラウドとして、明確に定義され、コミットされた戦略があるか?
- ビジネス上重要なアプリケーションの、継続的な、エンドツーエンドのホスティングを提供できるか?
- 標準化されたデリバリー・プロセスと 24 時間 365 日のサポートを提供する、グローバル・オペレーション・センターがあるか?
- 強力なローカル・サポート展開を伴う、グローバルなプロジェクト管理を実現しているか?

大手薬局チェーンが運用コストを削減し、成長を実現

課題: 大手薬局チェーンが地域の小売ドラッグストアを買収して成長戦略を推進したところ、そのネットワークは、独立した 5 つのデータセンターによってサポートされるものとなりました。*この構成により、さまざまなサービス・レベルが生まれ、変化する市場に対して迅速に対応することが困難になりました。

ソリューション: IBM® は、同社がデータセンターの運用を一元化し、より柔軟なクラウド環境を実装できるよう支援しました。そしてインフラストラクチャーのパフォーマンスと可用性の最適化のために、IBM は、24 時間体制の監視、管理、およびサポートのサービスを提供しています。

メリット: より高い安定性を備えたこの新しいインフラストラクチャーは、同社の中核アプリケーションの可用性を支援し続けています。さらに同社は、一元化されたインフラストラクチャーが、運用コストの大幅削減に貢献することを期待しています。



IBM によるクラウド・ベースのインフラストラクチャーの活用



© Copyright IBM Corporation 2013

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Produced in Japan
May 2013

IBM、IBM ロゴ、ibm.com および AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Windows は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

本資料の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

本資料に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。日本 IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は自己の責任で関連法規を順守しなければならないものとします。日本 IBM は法律上の助言を提供することはいたしません。また、日本 IBM のサービスまたは製品が、お客様がいかなる法規も順守されていることの裏付けとなると表明するものでも、保証するものでもありません。



Please Recycle
